

# 藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

事務事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費								担当	部課名	都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当					
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	01	細目	007	説明	01	課等の長	川崎 隆之	電話	4332

## 1. 事業概要

事業開始年度	平成 22 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務	
事業概要	藤沢駅周辺市街地の再活性化及び都市機能の更新・強化に向けて策定した「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に位置付けられている個別プロジェクトの調整・検討					
事業目的 および 必要性	活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、市の中心地にふさわしい都市空間を形成する。 藤沢駅周辺地区は、市都心部であり、超高齢社会に対応した市全体のコンパクトな都市構造を形成する上で核となる拠点地区であることから、活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、かつ、安心・安全の観点を踏まえ、再活性化に向けた早急な再整備が必要である。					
対象	1. 個人	市民				427,501 人
根拠法令等						
事業実施 手法 (該当する もの全てに チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 ( 委 託 先 : (株)URリンケージ, (株)日建設計 ) ( 委 託 等 内 容 : 駅周辺再整備プロジェクト支援, 南口駅前広場の再整備に向けた検 討 等 ) <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 ( : ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 藤沢駅北口デッキ高質化工事 )					
<b>藤沢市市政運営の総合指針2020</b>						
重点施策名			指針体系コード		その他の計画との関連	
都市基盤の充実と長寿命化対策の推進			5-1-111		本事業は「藤沢市都市マスタープラン」及び「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」(以下「基本計画」という。)に位置付けられている。なお、基本計画のうち、「藤沢北口駅前地区整備事業」については、平成27年度に完了した。	
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」						
市民意識調査における質問項目			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
駅をはじめとする拠点の整備について			2.89 点	2.89 点	2.91 点	2.94 点
			点	点	点	点

平成29年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費 目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	委託料	32,152 千円	業務支援, 計画検討, 調査 等
	工事請負費	160,000 千円	藤沢駅北口デッキ高質化工事
	その他	2,978 千円	事務経費
195,130 千円			
【参考】 平成30年度 予算額	事業費節別内訳		
	費 目	予算額 (千円)	主な事業内容
	委託料	86,022 千円	業務支援, 計画検討, 調査 等
	工事請負費	1,025,197 千円	藤沢駅北口デッキ高質化工事 等
	負担金	66,585 千円	藤沢駅自由通路拡幅整備基本設計負担金 等
1,183,253 千円	その他	5,449 千円	事務経費

## 2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
正規職員等	4.50	6.00	9.00	9.00
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	4.50	6.00	9.00	9.00

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

### 3. 事業実施内容・成果

平成29年度 事業実施 内容	藤沢駅北口デッキ高質化工事に着手した。(平成29年度から3箇年継続工事) 藤沢駅自由通路の拡幅や駅改良に向けて鉄道事業者と協議調整を行った。 南口駅前広場の再整備に向けた基本計画を作成するため、2つの検討組織を設置し、意見交換を行った。 エリアマネジメント導入に向けた勉強会及び社会実験を実施した。 その他「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に位置付けられた個別プロジェクトの推進に向けて、検討・調整を行った。						
	指標名	単位	平成26年度 目標値	平成27年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	備考
成果目標	来街者数	万人/日	35	35	35	35	・来街者数:計測地点の変更に伴う目標値変更 ・指標追加
	駅をはじめとする拠点の整備についての満足度(5段階)	点	3	3	3	3	
参考 藤沢駅周辺商店街活性化調査 市民意識調査							
活動実績	指標名	単位	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	備考
	委員会等の開催	回	5	2	3	9	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	来街者数	万人/日	31	31	31	31	数値で表せない効果 藤沢駅北口デッキ高質化工事に着手したほか、自由通路の拡幅・駅改良や藤沢駅南口再整備に向けた検討、エリアマネジメント導入に向けた検討等を進め、個別プロジェクトの推進を図った。
駅をはじめとする拠点の整備についての満足度(5段階)	点	2.89	2.89	2.91	2.94		

### 4. コスト分析

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
コスト	行政費用(フルコスト) A	105,698	250,034	661,920	279,869
	(1)現金を伴う支出 (千円)	111,028	245,845	652,001	282,130
	事業費(支出済額-②報酬合計)	68,376	188,562	565,192	195,130
	償還金利息	0	0	0	0
	人件費合計(①+②+③)	42,652	57,283	86,809	87,000
	職員数(常勤 非常勤)	4.50 0.00	6.00 0.00	9.00 0.00	9.00 0.00
	参考:正規職員平均給与	8,880	9,040	9,101	9,219
	①職員給与合計(常勤)	39,960	54,240	81,909	82,971
	②報酬合計(非常勤)	0	0	0	0
	③退職金相当額	2,692	3,043	4,900	4,029
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	-5,330	4,189	9,919	-2,261
	①減価償却費	0	0	0	0
	②退職給与引当金繰入額	-5,330	4,189	9,919	-2,261
	③不納欠損額	0	0	0	0
④その他( )	0	0	0	0	
収入	行政収益(事業収入) B	0	52,200	197,200	120,000
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	52,200	197,200	120,000
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0
	②使用料及び手数料 d	0	0	0	0
	③国庫支出金	0	0	106,600	0
	④県支出金	0	0	0	0
	⑤その他(市債(藤沢駅周辺地区再整備事業債))	0	52,200	172,100	120,000
	(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0
収入未済増減額	0	0	0	0	
収支差額(純費用)A-B E	105,698	197,834	377,628	159,869	
分析指標	項目 来街者数 F	31	31	31	31
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	3,409,612.90	8,065,612.90	21,352,258.06	9,028,032.26
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	252.68 418,308	470.34 420,619	888.32 425,105	373.96 427,501
	受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00	0.00	0.00	0.00

※1 職員数…(常勤)一般職員,再任用職員,任期付職員,嘱託職員 [非常勤]月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)

※2 人件費…(常勤)任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出 [非常勤]月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額

※3 退職金相当額…年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し,事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成28年度の課題	事業計画案に示している具体的な個別事業の推進
(2) (1)解決のための平成29年度の取組	藤沢駅北口デッキ高質化工事に着手した。 藤沢駅自由通路の拡幅や駅改良に向けて鉄道事業者と協議調整を行った。 南口駅前広場の再整備に向けた基本計画を作成するため、2つの検討組織を設置し、意見交換を行った。 エリアマネジメント導入に向けた勉強会及び社会実験を実施した。 その他「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に位置付けられた個別プロジェクトの推進に向けて、検討・調整を行った。
(3) 平成29年度の課題	事業計画案に示している具体的な個別事業の推進
(4) (3)解決のための今後の取組	藤沢駅北口デッキ高質化工事の推進 自由通路拡幅・駅改良に向けた検討・協議 南口再整備に向けた基本計画の作成 地下通路リニューアルに向けた概略設計 関係者間での合意形成を図るための協議・調整

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	<input type="radio"/> ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	④ 事業費…平成29年度支出済額	<input type="radio"/> ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満	
	(2) 財政的な特徴	⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上
		(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
	4. 施設等整備		

## 7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>藤沢駅周辺は、藤沢市が昭和40年代から昭和50年代にかけて実施した都市基盤の整備に伴い、民間の商業施設の多くが同時期に建設され、老朽化による機能更新の時期を迎えている。鉄道乗降客数は増加しているが、年間商品販売額の減少傾向が続いており、まちの再活性化・にぎわいの創出が求められている。</p> <p>今後、鉄道事業者による駅施設の改良や藤沢市による駅前広場の再編を推進することによる、老朽化した民間施設の建て替えを誘導する等、まちの再活性化等の課題解決に向けた官民連携によるまちづくりが必要となる。</p>	
他市等の事例	<p>柏市 平成21年度 柏駅東口歩行者専用嵩上式広場改良事業→平成23年度 事業完了          中野区平成21年度 中野駅地区整備基本計画→平成22年度 中央本線中野駅西側橋上南北通路等の調査設計実施</p>	
市民ニーズ	把握方法	<p>藤沢駅南口駅前広場あり方検討会議及び藤沢駅南口交通広場調整会議での意見交換          藤沢駅街区エリアマネジメント勉強会での意見交換          藤沢駅南口駅前広場及び地下通路に関する市民及び利用者へのアンケート調査          藤沢駅周辺の交通量調査          サンパレットにぎわい創出社会実験におけるアンケート調査          まちづくりニュースや広報等による積極的な情報発信による市民等からの意見聴取</p>
	把握内容	<p>藤沢駅南口駅前広場の良いところ、現状の課題、今後必要とする機能          地下通路の利用状況及び現状における課題          エリアマネジメント導入に係る意見          にぎわい創出事業に係る意見          本課が実施している各種事業に関する意見</p>
	対応等	<p>藤沢駅南口駅前広場基本計画、地下通路リニューアル概略設計、藤沢駅周辺地区のにぎわい創出事業の実施等の計画及び設計並びに事業実施の参考とする。</p>

## 8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>平成29年度は、藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画に基づく事業計画案に示された、藤沢駅北口デッキ高質化工事に着手したほか、自由通路の拡幅・駅改良や藤沢駅南口駅前広場の再整備に向けた検討、その他各プロジェクトを進め、事業の進捗が図られたものと評価する。なお、自由通路の拡幅・駅改良等においては鉄道事業者との協議・調整に時間を要しているが、引き続き協議を進めていく。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	⑤ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	拡大
	<p>活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、市の都心部にふさわしい都市空間の形成を目指す。</p>	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク分類Ⅰ	リスク分類Ⅱ
1	地元事業者(商工会議所等)との連携・会議出席等	無	無	1	1
4	藤沢駅周辺地区再整備に関わる委員会等の運営	無	無	1	1
5	報道機関からの取材対応	無	無	1	1
6	情報発信・広報	無	無	1	1
7	工事発注業務	無	無	3	3

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満, レベル2は10%以上30%未満, レベル3は30%以上。

※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響, レベル2は部内への影響, レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	藤村 勝己	確認日	2018/5/31
----	-------	----	-------	-----	-----------

# 藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

事務事業名	藤沢駅周辺地区再整備事業費(繰越分)										担当	部課名	都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当			
予算科目コード	会計	01	款	09	項	04	目	01	細目	007	説明	01	課等の長	川崎 隆之	電話	4332

## 1. 事業概要

事業開始年度	平成 28 年度	終了(予定)年度	平成 29 年度	事業の性質	任意自治事務
事業概要	藤沢駅周辺市街地の再活性化及び都市機能の更新・強化に向けて策定した「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」に位置付けられている個別プロジェクトの調整・検討 ※市道藤沢4号線道路改良工事				
事業目的 および 必要性	活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、市の中心地にふさわしい都市空間を形成する。 藤沢駅周辺地区は、市都心部であり、超高齢社会に対応した市全体のコンパクトな都市構造を形成する上で核となる拠点地区であることから、活力とにぎわいのあるまちづくりを目指し、かつ、安心・安全の観点を踏まえ、再活性化に向けた早急な再整備が必要である。				
対象	1. 個人	市民			427,501 人
根拠法令等					
事業実施 手法 (該当する もの全てに チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 ( : ) <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 ( : ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
藤沢市市政運営の総合指針2020			その他の計画との関連		
重点施策名		指針体系コード			
都市基盤の充実と長寿命化対策の推進		5-1-111		本事業は「藤沢市都市マスタープラン」及び「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」(以下「基本計画」という。)に位置付けられている。なお、基本計画のうち、「藤沢北口駅前地区整備事業」については、平成27年度に完了した。	
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」					
市民意識調査における質問項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
駅をはじめとする拠点の整備について		2.89 点	2.89 点	2.91 点	2.94 点
		点	点	点	点

平成29年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費 目	支出済額 (千円)	主な事業内容
	工事請負費	16,092 千円	市道藤沢4号線道路改良工事
	16,092 千円		
【参考】 平成30年度 予算額	事業費節別内訳		
	費 目	予算額 (千円)	主な事業内容
	0 千円		

## 2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
正規職員等	0.00	0.00	1.00	1.00
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.00	0.00	1.00	1.00

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

### 3. 事業実施内容・成果

平成29年度 事業実施 内容	市道藤沢4号線道路改良工事が完了し、駅北口から本庁舎へ至る快適な歩行空間の形成が図られ、市民及び来街者の利便性が向上した。						
成果目標	指標名	単位	平成26年度 目標値	平成27年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	備考
	事業進捗率	%	—	—	10	90	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	備考
	設計・発注・契約事務進捗率	%	—	—	100	0	
	工事進捗率	%	—	—	0	100	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	事業進捗率	%	—	—	10	90	
	数値で表せない効果 市道藤沢4号線は、藤沢駅北口から本庁舎に至る道路の一部であり当該工事が完了したことにより歩きやすい空間が構築され、市民及び来街者の利便性が向上した。						

### 4. コスト分析

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
コスト	行政費用(フルコスト) A			13,016	25,508
	(1)現金を伴う支出 (千円)			9,645	25,759
	事業費(支出済額-②報酬合計)			0	16,092
	償還金利息			0	0
	人件費合計(①+②+③)			9,645	9,667
	職員数(常勤 非常勤)			1.00	0.00
	参考:正規職員平均給与			9,101	9,219
	①職員給与合計(常勤)			9,101	9,219
	②報酬合計(非常勤)			0	0
	③退職金相当額			544	448
	(2)現金を伴わない支出 (千円)			3,371	-251
	①減価償却費			0	0
	②退職給与引当金繰入額			3,371	-251
	③不納欠損額			0	0
	④その他( )			0	0
	行政収益(事業収入) B			0	16,000
	(3)現金を伴う収入 (千円)			0	16,000
①分担金及び負担金 c			0	0	
②使用料及び手数料 d			0	0	
③国庫支出金			0	5,000	
④県支出金			0	0	
⑤その他(市債(藤沢駅周辺地区再整備事業債))			0	11,000	
(4)現金を伴わない収入 (千円)			0	0	
収入未済増減額			0	0	
収支差額(純費用)A-B E			13,016	9,508	
分析指標	項目	事業進捗率		10	90
				単位 %	単位 %
	1単位あたりの総費用 A/F (円)			1,301,600.00	283,422.22
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)			30.62	425,105
受益者負担率 (C+D)/A (%)			0.00	0.00	

※1 職員数…〔常勤〕一般職員、再任用職員、任期付職員、嘱託職員〔非常勤〕月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)  
 ※2 人件費…〔常勤〕任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出〔非常勤〕月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額  
 ※3 退職金相当額…年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成28年度の課題	国の平成28年度2次補正に伴う社会資本整備総合交付金の追加を受けたことにより、平成29年度当初に予定していた「市道藤沢4号線道路改良工事」について、平成28年度末に前倒しして発注し契約を締結した。なお、本工事は、平成28年度内の完了が見込めないことから繰越明許費の設定を行った。
(2) (1)解決のための平成29年度の取組	市道藤沢4号線道路改良工事が完成し、駅北口から本庁舎へ至る快適な歩行空間の形成が図られ、市民及び来街者の利便性が向上した。
(3) 平成29年度の課題	事業計画案に示している具体的な個別事業の推進
(4) (3)解決のための今後の取組	工事完成のため、事業完了

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠		
	<input type="radio"/>	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)		
	<input type="radio"/>	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間		
	<input type="radio"/>	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…平成29年度支出済額	
		<input type="radio"/>	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	
		<input type="radio"/>	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合			
<input type="radio"/>		ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上	

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
4. 施設等整備	



### 7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>藤沢駅周辺は、藤沢市が昭和40年代から昭和50年代にかけて実施した都市基盤の整備に伴い、民間の商業施設の多くが同時期に建設され、老朽化による機能更新の時期を迎えている。鉄道乗降客数は増加しているが、年間商品販売額の減少傾向が続いており、まちの再活性化・にぎわいの創出が求められている。</p> <p>今後、鉄道事業者による駅施設の改良や藤沢市による駅前広場の再編を推進することによる、老朽化した民間施設の建て替えを誘導する等、まちの再活性化等の課題解決に向けた官民連携によるまちづくりが必要となる。</p>	
他市等の事例		
市民ニーズ	把握方法	まちづくりニュースや広報等による積極的な情報発信による市民等からの意見聴取
	把握内容	事業に関する意見
	対応等	事業実施の参考とした。

### 8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>繰越した市道藤沢4号線道路改良工事が完成し、本事業については完了となった。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	⑤ 都市の機能と活力を高める
	事業の方向性	廃止・完了
	事業完了	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク分類Ⅰ	リスク分類Ⅱ
7	工事発注業務	無	無	3	3

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満，レベル2は10%以上30%未満，レベル3は30%以上。  
 ※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響，レベル2は部内への影響，レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	都市整備部	氏名	藤村 勝己	確認日	2018/5/31
----	-------	----	-------	-----	-----------